

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-229059

(P2007-229059A)

(43) 公開日 平成19年9月13日(2007.9.13)

(51) Int. Cl.

A47C 7/46 (2006.01)
A47C 7/38 (2006.01)

F I

A47C 7/46
A47C 7/38

テーマコード (参考)

3B084

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願2006-51952 (P2006-51952)
(22) 出願日 平成18年2月28日 (2006.2.28)

(71) 出願人 000001351
コクヨ株式会社
大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号
(72) 発明者 上田 伸行
大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号
コクヨファニチャー株式会社内
Fターム(参考) 3B084 DA01 DB04 DC01 HA06

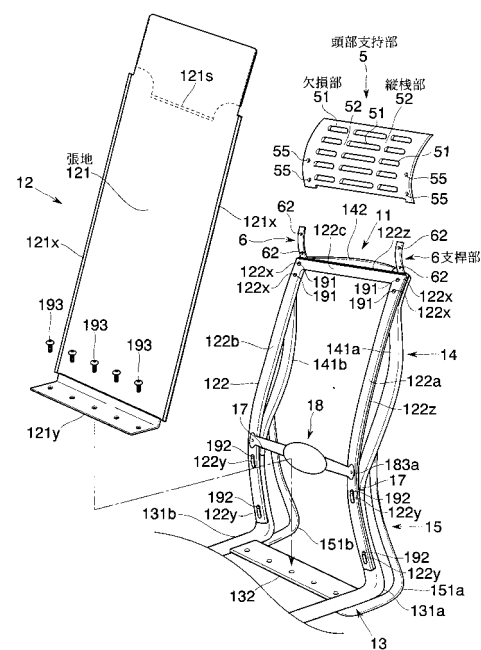
(54) 【発明の名称】 椅子のヘッドレスト

(57) 【要約】

【課題】簡便な構成で、頭部を凭せかけたときのクッション性と頭部をしっかりと支える保形性との両立を図る。

【解決手段】椅子のヘッドレストHを、保形性を有し湾曲面形状をなす心材を要素として着座者の頭部を支える頭部支持部5を構成するものとし、その心材5の所要部位に欠損部51を形成して可撓性、可変形性を補うようにした。

【選択図】 図7



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

保形性を有し湾曲面形状をなす心材を要素として着座者の頭部を支える頭部支持部を構成しているものであって、
心材の所要部位に欠損部を形成して可撓性を補っていることを特徴とする椅子のヘッドレスト。

【請求項 2】

欠損部として、幅方向に延伸する複数本のスリットまたは有底溝を形成している請求項 1 記載の椅子のヘッドレスト。

【請求項 3】

上下方向に延伸しスリットまたは有底溝と交差する縦棧部を設けている請求項 2 記載のヘッドレスト。

【請求項 4】

さらに、前記縦棧部内に欠損部を形成し、または前記縦棧部を欠損部を形成することで、縦棧部における剛性の大きさを調整している請求項 3 記載のヘッドレスト。

【請求項 5】

前記心材の中間部に欠損部を形成することにより中間部に可撓性をもたせながら左右両側端部の剛性を相対的に高めており、
その左右両側端部を椅子本体に支持させるようにしている請求項 1、2、3 または 4 記載の椅子のヘッドレスト。

【請求項 6】

心材が樹脂材料を用いた一体成形品である請求項 1、2、3、4 または 5 記載の椅子のヘッドレスト。

【請求項 7】

心材に張地を被せてこれを被覆している請求項 1、2、3、4、5 または 6 記載の椅子のヘッドレスト。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、椅子のヘッドレストに関する。

【背景技術】**【0002】**

オフィス等で使用される執務用椅子には、着座者の頭部を支えるヘッドレストが付随していることが少なくない。この種の椅子のヘッドレストは、背凭れの上端部に固定されていることが通例である（例えば、下記特許文献を参照）。

【特許文献 1】 特開 2002-119371 号公報**【発明の開示】****【発明が解決しようとする課題】****【0003】**

一般的に、椅子のヘッドレストは、使用感や外観デザイン等の観点から湾曲形状に形作られている。従来のヘッドレストは、湾曲形状に成形したシェルの前面にウレタンクッション等を貼付した上でこれを表皮で被覆したり、または、幅方向に離間させて配置した弓形をなすフレーム材に伸縮性に富むネットを張り設けたりして構成される。しかしながら、前者のものはコストが嵩むきらいがあり、後者のものは着座者が頭部を凭せかけたときにネットが必要以上に伸長して頭部がしっかりと支えられない不安定さを感じさせることがあった。

【0004】

以上に鑑みてなされた本発明は、簡便な構成で、頭部を凭せかけたときのクッション性と頭部をしっかりと支える保形性との両立を図ることを所期の目的とする。

【課題を解決するための手段】

10

20

30

40

50

【0005】

上述した課題を解決するべく、本発明では、保形性を有し湾曲面形状をなす心材を要素として着座者の頭部を支える頭部支持部を構成し、かつ心材の所要部位に欠損部を形成して可撓性を補った椅子のヘッドレストを構成した。湾曲面形状をなす心材は、その形状のために剛性が高まり着座者に硬質感を与えるおそれがあるが、欠損部を形成することで可変形性を高め、ひいては頭部を凭せかけたときのクッション性を付与するものとしている。ここで、保形性とは、外力が作用していない状態で一定の湾曲面形状を維持することをいう。また、欠損部とは、スリット、切欠、貫通孔や肉盗み（貫通していない凹部。対象部分を薄肉化する）等を総称した概念である。

【0006】

より具体的には、欠損部として、幅方向に延伸する複数本のスリットまたは有底溝を形成する。このようなものであれば、着座者が頭部を凭せかけたときの感触を良化できる。

【0007】

一方で、心材には上方より張地等の表皮を被せてこれを被覆することが通例である。この場合、心材には張地の張力が作用するため、単に上記のスリットまたは有底溝を形成しただけのものであると、例えば心材の上縁部が引きつり押し下げられて外形が崩れる可能性がある。上下方向に延伸しスリットまたは有底溝と交差する縦棧部を設けておけば、心材の外形が不用意に崩れてしまう不都合を回避できる。

【0008】

通常、縦棧部は、心材の上縁と下縁とを連絡するように直線的に延びている。しかし、そのようなものであると、縦棧部の剛性が顕著に大きくなる。これに対し、前記縦棧部内に欠損部を形成し、または前記縦棧部を横切る欠損部を形成することによって、縦棧部における剛性の大きさを調整するようにしても構わない。

【0009】

前記心材の中間部に欠損部を形成することにより中間部に可撓性をもたせながら左右両側端部の剛性を相対的に高めており、その左右両側端部を椅子本体に支持させるようにしているならば、必要十分な可撓性を担保しつつも、ヘッドレストの椅子本体に対する連結構造の強度を高めることができる。

【0010】

本発明に係るヘッドレストの心材は、樹脂材料を用いた一体成形品とすることが好ましい。

【0011】

その上で、心材に張地を被せてこれを被覆しておけば、家具としての美観・格調を高めることができる。

【発明の効果】

【0012】

本発明によれば、簡便な構成で、頭部を凭せかけたときのクッション性と頭部をしっかりと支える保形性との両立を図り得る。

【発明を実施するための最良の形態】

【0013】

以下、本発明の一実施形態を、図面を参照して説明する。本実施形態の椅子は、図1ないし図3に示すように、脚体4と、脚体4に支持させた基体2と、基体2上に配設した座3と、水平支軸16を介して基体2に枢着した背凭れ1とを具備する椅子本体CにヘッドレストHを取り付けたものであって、座3及び背凭れ1が連動して傾動するシンクロロッキング動作が可能である。

【0014】

詳述すると、脚体4は、複数個のキャスターを装着している脚羽根41と、脚羽根41の中央より略垂直に立ち上がる脚支柱42とを備えており、脚羽根41と脚支柱42との間に介設したガススプリング（図示せず）の伸縮により脚支柱42を上下に突没させ得る。

10

20

30

40

50

【0015】

基体2は脚支柱42の上端に固定してあって、脚支柱42の突没操作を通じて座3及び背凭れ1の高さ位置を調節することができる。基体2には、水平支軸16回りに回転する背凭れ1を前方へ付勢する弾性付勢機構（図示せず）、背凭れ1のロッキング角度を固定する固定機構（図示せず）等を内蔵している。弾性付勢機構は、コイルスプリングやガススプリングを実装して背フレーム11を弾性付勢するものである。

【0016】

座3は、座受31に座面を形成するクッション体32を装着してなる。座3の前端部は、基体2に対し前後方向にスライド移動可能に支持させており、座3の後端部は、下記背フレーム11における下フレーム部13にヒンジ（図示せず）を介して取付している。

10

【0017】

背凭れ1は、背フレーム11の前面に背凭れ面Sを形成する張り部材12を張り設けたものである。背フレーム11は、基体2に対し水平支軸16回りに回転可能に連結している下フレーム部13と、下フレーム部13の上端にヒンジ17を介して連結している上フレーム部14と、上フレーム部14を後方より支持する反力フレーム部15とを備えている。

【0018】

下フレーム部13は、幅方向に離間させて配置した左右の下フレーム要素131a、131b同士を、剛性横架材132を以て相互に連結してなる。下フレーム要素131a、131b、剛性横架材132はともに、例えば金属製の剛体である。下フレーム要素131a、131bは、側面視水平支軸16の位置する前端から後方に延伸し、後端で上方に屈曲した略L字型をなす。

20

【0019】

上フレーム部14は、幅方向に離間させて配置した左右の上フレーム要素141a、141b同士を、弾性横架材142を以て相互に連結してなる。上フレーム要素141a、141bは例えば金属製の剛体であるが、弾性横架材142は例えば樹脂製の弾性体である。上フレーム要素141a、141bは、側面視ヒンジ17の位置する下端から、幾分後方に凹むように緩やかに湾曲しつつ上方に延伸し、その上端近傍で再度前方に膨出する弓形をなす。

【0020】

反力フレーム部15は、上フレーム要素141a、141bの各々を支持する同数の反力フレーム要素151a、151bよりなる。反力フレーム要素151a、151bの一端部は上フレーム要素141a、141bの背面に接続し、他端部は下フレーム要素131a、131bの下向面に接続する。反力フレーム要素151a、151bは、例えば弾性横架材142と同質の樹脂製の弾性体とする。反力フレーム要素151a、151bは、側面視下フレーム要素131a、131b及び上フレーム要素141a、141bに沿うように延伸して略L字型をなす。

30

【0021】

下フレーム要素131a、131bと上フレーム要素141a、141bとを互いに枢着するヒンジ17の周辺、具体的には下フレーム要素131a、131bの後端から上端近傍にかけて及び上フレーム要素141a、141bの下端近傍の範囲では、側面視フレームの前面が前方に膨出するような湾曲形状をなしている。既に述べたように、上フレーム要素141a、141bの上端近傍においても、側面視フレームの前面が前方に膨出するような湾曲形状をなしている。しかして、上記の下フレーム要素131a、131b及び上フレーム要素141a、141bの湾曲形状をなす部位に架け渡すように、張り部材12を張り設けている。

40

【0022】

張り部材12は、伸縮性に富む張地121を主体とする。張地121は、例えば合成繊維のダブルラッセルメッシュにさらにエラストマ糸等の弾性糸を編み込んだもの（詳細には、それぞれ伸縮変形可能なメッシュ地の表布と裏布とをダブルラッセル編みで立体的に

50

縫い合わせてなる)で、強度とクッション性とを両備している。

【0023】

張地121の上辺及び左右の側辺は、バックアップ材122で保形している。図7に示すように、バックアップ材122は、左右両側に対をなす縦枠122a、122bと両縦枠122a、122bを連結する横枠122cとが正面視三方枠状または四方枠状をなし、前後方向に撓み変形可能な例えば樹脂製の薄板体で、特に張地121の左右の側辺が内側方に撓もうとすることを防ぎ、張地121を張った状態に保つ。図示例のバックアップ材122は、左右両側の縦枠122a、122bの上端部同士を横枠122cを介して相互に連結した正面視略三方枠状をなすものである。

【0024】

バックアップ材122の上端部は、背フレーム11の上端部に支持させる。本実施形態では、バックアップ材122の縦枠122a、122bの上端部に貫通孔122xを穿ち、その貫通孔122xにビスまたはピン等の止着具191を挿通して上フレーム要素141a、141bの上端部に止着している。一方で、バックアップ材122の下端部は、背フレーム11の下端部に支持させる。本実施形態では、バックアップ材122の縦枠122a、122bの下端部及び中間よりやや下方の部位にそれぞれ上下方向に延伸する長孔122yを穿ち、それら長孔122yにビスまたはピン等の止着具192を挿通して各々を下フレーム要素131a、131bの下端部及び上端部に止着している。バックアップ材122の上端部は上フレーム要素141a、141bに対して固定されるが、下端部は下フレーム要素131a、131bに対して上下スライド可能となる。

【0025】

背フレーム11の上端部とヒンジ17近傍との間は側面視後方に凹むように湾曲しており、縦枠122a、122bの中間部位が後方に撓み変形し得る余地を与えている。背フレーム11の上辺をなす弾性横架材142もまた平面視後方に凹むように湾曲しており、横枠122cが後方に撓み変形し得る余地を与えている。

【0026】

張り部材12における、背凭れ面Sを形成する上部は左右の上フレーム要素141a、141bに装着して支持させ、下部は左右の下フレーム要素131a、131bに装着して支持させる。張地121を背フレーム11に架設するに際しては、張地121の左右の側縁をバックアップ材122の縦枠122a、122bに装着する。具体的には、図7及び図9に示すように、バックアップ材122の周端面、即ち左右の縦枠122a、122bの外側端面にそれぞれ凹溝122zを形成し、凹溝122zに張地121の二方の縁端121xを嵌め入れて係止する。なお、張地121の縁端121x、121sには、予め、長尺な薄板状をなす例えば樹脂製の縁端材を(縫合、接着、溶着等により)取り付けておく。さらに、張地121の下縁を下フレーム部13の所定部位に固定する。図示例では、張地121の下縁にブラケット121yを取り付けておき、このブラケット121yを下フレーム部13の剛性横架材132にボルト193等を用いて固定している。さらに、張地121の最上部位は、背フレーム11の上縁よりも上方に延出している。この最上部位は、後述するように、ヘッドレストHを被覆するものとなる。

【0027】

総じて言えば、背フレーム11の前面にバックアップ材122を、バックアップ材122の前面に張地121を配している。このとき、バックアップ材122は板ばねの作用を営み、張地121を前方に押圧して張り出させる。張地121の上端部及び下端部は、それぞれ背フレーム11の上下端部に対して固定される。張地121の上端部はバックアップ材122を介して間接的に上フレーム要素141a、141bに固定され、張地121の下端部はバックアップ材122を介さず直接的に下フレーム要素131a、131bに固定されている。

【0028】

本実施形態の椅子は、座3及び背凭れ1が連動して傾動するシンクロロッキング動作が可能である。図4に示すように、シンクロロッキング動作では、背フレーム11全体が水

10

20

30

40

50

平支軸 16 回りに回転することで背凭れ 1 が前後に傾動する。同時に、座 3 の後端部が背フレーム 11 に連動して上下に揺動し、かつ座 3 の前端部が前後にスライドする。

【0029】

また、本実施形態の椅子は、着座者が着座したまま後ろを振り向いたり、手を伸ばしたり、身体をねじったりする動きに追従して、背凭れ面 S の上部の左半部のみ、または右半部のみを後方に変位させる動作が可能である。背凭れ面 S の上部を支持している上フレーム部 14 は、左右に対をなす上フレーム要素 141a、141b が互いに独立して前後動する。即ち、左側の上フレーム要素 141a は左側の下フレーム要素 131a にヒンジ 17 を介して連結し、右側の上フレーム要素 141b は右側の下フレーム要素 131b にヒンジ 17 を介して連結しており、これら上フレーム要素 141a、141b が個別に回転し得る。

10

【0030】

図 5 に示すように、上フレーム要素 141a、141b をヒンジ 17 回りに後傾させたとき、下フレーム要素 131a、131b 及び上フレーム要素 141a、141b の湾曲形状をなす部位に張り部材 12 が接触する面積が徐々に増大するとともに、背フレーム 11 の上端部と下端部との離間距離が拡大するために張地 121 が張力を増しつつ上下に伸長する。同時に、バックアップ材 122 の下端部が長孔 122y の寸法範囲内で下フレーム要素 131a、131b に対し上下方向に相対変位する。並びに、反力フレーム要素 151a、151b がアングルを拡げるように変形して反力を蓄積し、上フレーム要素 141a、141b を原位置に復帰させる方向、つまり前方に弾性付勢する。

20

【0031】

そして、何れか一方の上フレーム要素 141a (141b) を他方の上フレーム要素 141b (141a) に対し相対的に前後方向に変位させれば、図 6 に示すように、背凭れ面 S の形状を三次元的に変化させることができる。但し、図 6 では、明確化のためにヘッドレスト H の図示を省略している。この動作において、下フレーム部 13 は必ずしも駆動されない。左右に対をなす下フレーム要素 131a、131b は剛性横架材 132 を介して剛体連結されているため、それら下フレーム要素 131a、131b は常に一体的に運動する。故に、背凭れ面 S の下部、着座者の腰部より下方にあたる部分は、恒常的に一定の形状を維持する。

【0032】

着座者の動きに伴い、上フレーム要素 141a、141b の一方が他方に対し相対的に前後動すると、左右の上フレーム要素 141a、141b 間の距離が増大する。その際、両上フレーム要素 141a、141b の離間距離の増大に対応するべく、弾性横架材 142 が弾性変形する。本実施形態の弾性横架材 142 は、上フレーム要素 141a、141b の上端部同士を相互に連結しており、平面視後方に凹む湾曲形状をなす状態で組み付けてある。弾性横架材 142 の前後の厚みは、上フレーム要素 141a、141b に連結している両端部から幅方向の中央に向かうにつれて徐々に薄くなっており、両端部よりも中間部の方が比較的に変形し易くなっている。これは、上フレーム要素 141a、141b と弾性横架材 142 との連結箇所に負荷が集中することを避けるためである。

30

【0033】

ここで、上フレーム要素 141a、141b と弾性横架材 142 との連結態様に関して補足する。上フレーム要素 141a、141b は、上端で互いに相寄る内側方に接合端部を突き出させており、それら接合端部に弾性横架材 142 の両端部を接続する。図 9 に示すように、上フレーム要素 141a、141b の接合端部及び弾性横架材 142 の両端部の相互に向き合う端面の一方 (図示例では、上フレーム要素 141a、141b 側) には凸部 141x を突設し、他方 (図示例では、弾性横架材 142 側) には凹部 142x を形成して、凸部 141x を凹部 142x に嵌め入れる嵌合構造を構築している。そして、嵌合の方向とは交差する方向からボルト 194 を螺入して凸部 141x と凹部 142x の周壁とを螺合緊締することで、上フレーム要素 141a、141b の接合端部と弾性横架材 142 の端部とを結合する。図示例では、ボルト 194 を前方より螺入しており、このボ

40

50

ルト 1 9 4 は背フレーム 1 1 に張り設けられる張り部材 1 2 によって略隠蔽される。

【0034】

上フレーム要素 1 4 1 a、1 4 1 b の一方が他方に対し相対的に前後動するとき、弾性横架材 1 4 2 は曲率を減少させるように変形して両端間の距離を伸張する。

【0035】

加えて、背凭れ面 S が受けた着座者の荷重は、張り部材 1 2 を介して上フレーム要素 1 4 1 a、1 4 1 b に作用し、上フレーム要素 1 4 1 a、1 4 1 b を内側方に倒れ込ませようとしてヒンジ 1 7 に負荷をかける。このような負荷を打ち消し低減する目的で、弾性横架材 1 4 2 を、上フレーム要素 1 4 1 a、1 4 1 b を幅方向に離反させるような初期弾性力を発揮する状態で組み付けている。

10

【0036】

尤も、左右両側の上フレーム要素 1 4 1 a、1 4 1 b をともに傾動させることもできる。その場合、例えば着座者の背を大きく反らせるようなストレッチが可能になる。

【0037】

因みに、張地 1 2 1 の背後、着座者の腰部に対応する高さ位置に、ランバーサポート部材 1 8 を架け渡しておくこともできる。着座者が背凭れ面 S に身体を凭せかけた場合にも、腰部近傍部位はランバーサポート部材 1 8 に後方より支持され、ランバーサポート部材 1 8 の全長に応じた深度以上には後方に沈み込まない。ランバーサポート部材 1 8 の両端部は、適宜の支持構造（図示せず）を介してバックアップ材 1 2 2 の左右の縦枠 1 2 2 a、1 2 2 b に取着して支持させる。但し、ランバーサポート部材 1 8 の両端部を、左右の上フレーム要素 1 4 1 a、1 4 1 b または下フレーム要素 1 3 1 a、1 3 1 b に支持させることを妨げない。

20

【0038】

以降、図 7 ないし図 1 0 を参照しつつ、ヘッドレスト H に関して述べる。本実施形態の椅子のヘッドレスト H は、着座者の頭部を支える支持面を構成する変形可能な頭部支持部 5 と、頭部支持部 5 の左右両側に存在して頭部支持部 5 よりも剛性を有する支桿部 6 とを具備し、支桿部 6 を介して椅子本体 C に連結するとともに、頭部支持部 5 の変形を通じて一方の支桿部 6 を他方の支桿部 6 に対して相対的に変位させ得るように構成したものである。本実施形態では、椅子本体 C における左右の上フレーム要素 1 4 1 a、1 4 1 b が互いに独立に前後動することから、ヘッドレスト H もまたこれら上フレーム要素 1 4 1 a、1 4 1 b の動作に対応するべく可変形性を有している。

30

【0039】

頭部支持部 5 は、例えば硬質樹脂製の心材を要素とする。この心材 5 は、保形性を有し側面視前方に膨出する湾曲面形状をなす薄板状の部材であり、所要部位に欠損部 5 1 を形成して可撓性、可変形性を補っているものである。本実施形態では、心材 5 の中間部において幅方向に延伸する複数本の欠損部 5 1 たるスリットを、上下方向の略全域に亘り分散させて穿設している。但し、心材 5 を貫通するスリット 5 1 ではなく、心材 5 を貫通しない有底溝とすることを妨げない。スリット 5 1 の外側端は、心材 5 の左右両側縁よりも内方で止まっていて、スリット 5 1 が到達していない心材 5 の左右両側端部はある程度以上の剛性が担保される。左右両側端部の下端部の背面側には、前方に凹む凹陷 5 4 を形成し、その底壁面に貫通孔 5 5 を穿っている。

40

【0040】

加えて、心材 5 には、スリット 5 1 と交差する縦棧部 5 2 を設けてある。縦棧部 5 2 は、心材 5 の中心軸から左右に離間した複数箇所に配設している。縦棧部 5 2 は、心材 5 の上縁と下縁とを連絡するように直線的に延びている。縦棧部 5 2 の背面側には、補強のためのリブ（または、突条）5 3 を形成しているが、このようなリブ 5 3 は必須ではない。縦棧部 5 2 によって分割されたスリット 5 1 は、側方に位置しているものが比較的短く、中央に位置しているものが比較的長くなる。換言すれば、心材 5 の側方では欠損部 5 1 の量が比較的少なく、中央では比較的多くなっていると言える。これにより、中央部位の可撓性が相対的に高められている。

50

【0041】

支桿部6は、頭部支持部5とは別体をなす例えば金属製の連結部材を主体とする。連結部材6は、板材材を側面視略く字型をなすように成形した剛体の部材であって、下部を椅子本体Cに結着し、上部を心材5に結着するものである。連結部材6の下部には挿通孔61を穿ち、上部にはビス孔62を形成している。

【0042】

ヘッドレストHの椅子本体Cへの取り付けについて説明する。本実施形態では、左右両側に一对の連結部材6を配し、一方を左方の上フレーム要素141aに、他方を右方の上フレーム要素141bにそれぞれ連結した上で、これら連結部材6によって心材5を支持させる。連結部材6の下部を上フレーム要素141a、141bに結着するにあたっては、先に述べたバックアップ材122の縦枠122a、122bを上フレーム要素141a、141bに止着する止着具191を利用する。即ち、連結部材6の下部を上フレーム要素141a、141bと縦枠122a、122bとの間に配置し、縦枠122a、122bの貫通孔122xに挿通した止着具191をそのまま連結部材6の下部の挿通孔61に挿通して、上フレーム要素141a、141bに形成しているナット孔141sに螺合緊締して止着する。また、連結部材6の上部を心材5に結着するにあたっては、連結部材6の上部を心材5の背面側に形成した凹陷54内に配置し、凹陷54の底壁面に穿っている貫通孔55にビス等の止着具195を前方より挿通して、連結部材6の上部のビス孔62に螺合緊締して止着する。

【0043】

その上で、これら心材5及び連結部材6を、張地121によって被覆する。本実施形態では、張地121における、背フレーム11の上縁よりも上方に延出した最上部位をヘッドレストHの表皮として用いる。具体的には、張地121の最上部位を、ヘッドレストHの心材5の上縁に相当する高さ位置で後方に山折りし、前後に重なり合う部分の左右両側縁を縫合または溶着して下方に開口する袋状とする。次いで、その袋状の内側にヘッドレストHの心材5及び連結部材6を挿入した後、張地121を下方に張力をかけた状態で固定する。即ち、先に述べたブラケット121yを下フレーム13の剛性横架材132に固定し、並びに張地121の左右の縁端121xを縦枠122a、122bの外側端面の凹溝122zに嵌め入れて係止させる。さらに、張地121の最上端121s即ち袋状を形成するべく後方に折り曲げた部分の下端を、横枠122cの下端面に形成しておいた凹溝122sに嵌め入れて係止させる。しかる後、ヘッドレストHと背凭れ1との境界線近傍において、張地121の前後に重なり合う部分を縫合または溶着して袋を閉止する。

【0044】

本実施形態によれば、椅子のヘッドレストHを、着座者の頭部を支える支持面を構成する変形可能な頭部支持部5と、頭部支持部5の左右両側に存在して頭部支持部5よりも剛性を有し椅子本体Cに連結して頭部支持部5を支持する支桿部6とを具備するものとし、頭部支持部5の変形を通じて一方の支桿部6を他方の支桿部6に対して相対的に変位させ得るようにしたため、椅子本体Cの変形動作に追随することが可能となる。

【0045】

つまり、幅方向に離間させて配置した複数のフレーム要素141a、141bにより背凭れ面Sの上部を支持させた背凭れを具備し、その各フレーム要素141a、141bを互いに独立して前後動可能としている態様の椅子において、一方の支桿部6を一のフレーム要素141aに、他方の支桿部6を他のフレーム要素141bにそれぞれ連結することで、当該ヘッドレストHを椅子本体Cに連結している。また、これにより、ヘッドレストHの幅寸法を大きくとることができ、使用感の向上及び高級感の醸成にも奏効する。

【0046】

幅方向に拡張しつつ可撓性を有する薄板状の心材を要素として頭部支持部5を構成しているため、ヘッドレストHの保形性に寄与し、かつ着座者の頭部をしっかりと支えることができるものとなる。

【0047】

心材 5 の中間部に欠損部 5 1 を形成することにより中間部に可撓性をもたせながら左右両側端部の剛性を相対的に高めつつ、その左右両側端部を椅子本体 C に支持させる、即ち心材 5 の左右両側端部に支桿部 6 たる連結部材の一端を取着するようにしているため、必要十分な可撓性を担保しながら、ヘッドレスト H の椅子本体 C に対する連結構造の強度を高めることができる。

【0048】

頭部支持部 5 及び支桿部 6 を被覆する張地 1 2 1 が、椅子本体 C の背凭れにおいて背凭れ面 S を構成する張地 1 2 1 と共通化されているため、背凭れとヘッドレスト H とが一体的であるような外観を与え、家具としての美観・格調を高めることができる。

【0049】

また、本実施形態によれば、保形性を有し湾曲面形状をなす心材を要素として着座者の頭部を支える頭部支持部 5 を構成し、かつ心材 5 の所要部位に欠損部 5 1 を形成して可撓性、可変形性を補った椅子のヘッドレスト H を構成したため、頭部を凭せかけたときのクッション性が付与され、好適な使用感を提供できる。

【0050】

欠損部 5 1 として、幅方向に延伸する複数本のスリットまたは有底溝を形成しているため、着座者が頭部を凭せかけたときの感触を良化できる。

【0051】

一方で、上下方向に延伸しスリット 5 1 （または、有底溝）と交差する縦棧部 5 2 を設けているため、張地 1 2 1 を上方より被せたときに心材 5 の外形が不用意に崩れてしまう不都合を回避できる。

【0052】

ヘッドレスト H の心材 5 は樹脂材料を用いた一体成形品であり、その心材 5 に張地 1 2 1 を被せてこれを被覆しているため、簡単な構造でありながら、家具としての美観・格調を高めることができる。

【0053】

なお、本発明は以上に詳述した実施形態に限られるものではない。例えば、上記実施形態では、薄板状をなす心材 5 を要素として頭部支持部 5 を構成していたが、左右両側に離間して対をなす支桿部に可撓性及び伸縮性を有するネット、ベルトまたは多数本の線材等を架け渡すことによって頭部支持部を構成する態様を妨げない。

【0054】

上記実施形態では、ヘッドレスト H の頭部支持部 5 と支桿部 6 とが別体をなしていたが、両者を一体成形するということも考えられる。

【0055】

図 1 1 に示すように、心材 5 の縦棧部 5 2 内にも欠損部 5 6 を形成し、縦棧部 5 2 の剛性を低下させるようにしてもよい。欠損部 5 6 は、上下方向に延伸しつつ心材 5 の上下寸法よりも短小なスリットまたは有底溝で、一つの縦棧部 5 2 に対して複数のスリット 5 6 等を部分的に配置している。これにより、心材 5 の変形特性をアレンジできる。

【0056】

あるいは、図 1 2 に示すように、縦棧部 5 2 を横切る欠損部 5 7 を形成してもよい。この欠損部 5 7 は、幅方向に延伸するスリットまたは有底溝である。図示例では、縦棧部 5 2 を、心材 5 2 の中心軸上及び中心軸から左右に離間した複数箇所に配設しており、上記の欠損部 5 7 によってこれら縦棧部 5 2 を上下に複数に分断している。これにより、縦棧部 5 2 のみが局地的に固い感触を与えることを回避できる。

【0057】

心材 5 に形成するスリット 5 1 または有底溝は、幅方向に延伸しているとは限られない。上下方向に延伸するスリットまたは有底溝を複数本形成することで、心材の可撓性を補うことも可能である。その場合、スリットまたは有底溝が、図 1 3 に示しているように心材 5 の上縁または下縁まで到達していてもよいし（スリットであれば、心材 5 を複数の部位に分割し、かつ上縁または下縁でそれら各部位を切り離した状態となる）、図 1 4 に示

10

20

30

40

50

しているように心材 5 の上縁または下縁まで到達していなくともよい（スリットであれば、心材 5 の各部位が上縁及び下縁でつながっている状態となる）。上下方向に延伸するスリットまたは有底溝を形成することは、心材 5 の一部分だけを変形させるために有効である。翻って、上記実施形態の如く幅方向に延伸するスリット 5 1 または有底溝を形成するならば、心材 5 の全幅に亘って剛性が低下して全体的に変形し易くなる。

【0058】

心材 5 の湾曲面形状は、側面視前方に膨出する形状には限定されない。側面視後方または平面視前方／後方に膨出する形状でもよいし、中央部分が四方の周縁部よりも前方／後方に膨出するような形状でもよい。

【0059】

その他各部の具体的構成は上記実施形態に限られるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形が可能である。

【図面の簡単な説明】

【0060】

【図 1】本発明の一実施形態の椅子を示す斜視図。

【図 2】同椅子の側面図。

【図 3】同椅子の背面図。

【図 4】同椅子のシンクロロッキング動作を示す側面図。

【図 5】同椅子の上フレーム要素を後方に変位させた状態を示す側面図。

【図 6】同椅子の背凭れ面変形動作を示す平面図。

【図 7】同椅子の張地、支持体、ランバーサポート部材及びヘッドレストを示す要部分解斜視図。

【図 8】同椅子のヘッドレストの心材及び連結部材を示す要部分解斜視図。

【図 9】同椅子のヘッドレスト及び張地の取付構造を説明する要部平端面図。

【図 10】同椅子のヘッドレスト及び張地の取付構造を説明する要部側断面図。

【図 11】本発明の変形例の一を示す要部正面図。

【図 12】本発明の変形例の一を示す要部正面図。

【図 13】本発明の変形例の一を示す要部正面図。

【図 14】本発明の変形例の一を示す要部正面図。

【符号の説明】

【0061】

C … 椅子本体

1 2 1 … 張地

1 4 1 a、1 4 1 b … フレーム要素（上フレーム要素）

H … ヘッドレスト

5 … 頭部支持部（心材）

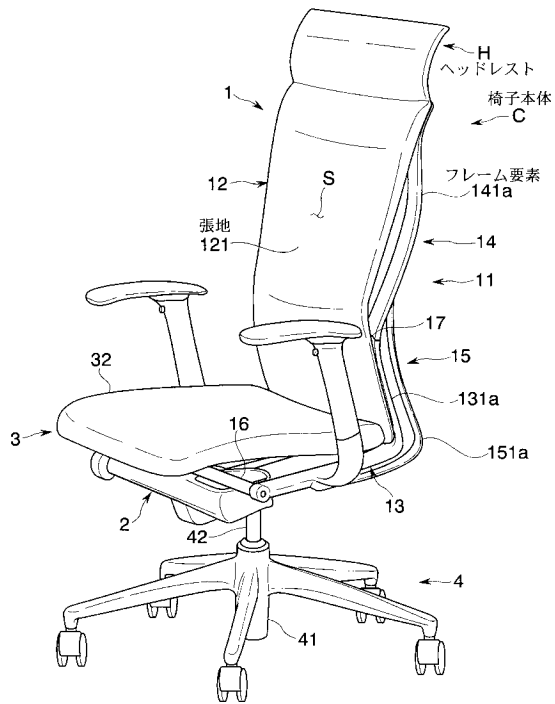
5 1 … 欠損部（スリット）

5 2 … 縦棧部

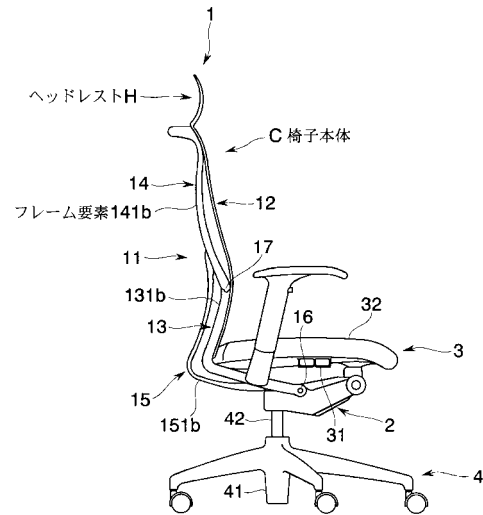
5 6、5 7 … 欠損部（スリット）

6 … 支桿部（連結部材）

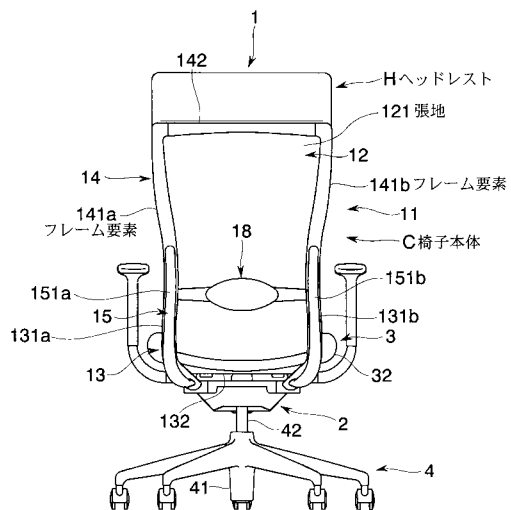
【図 1】



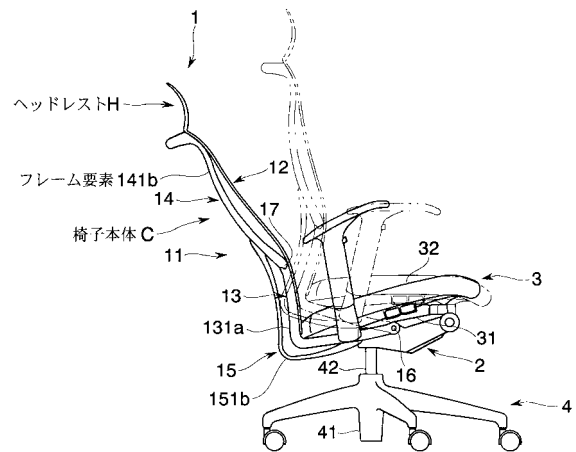
【図 2】



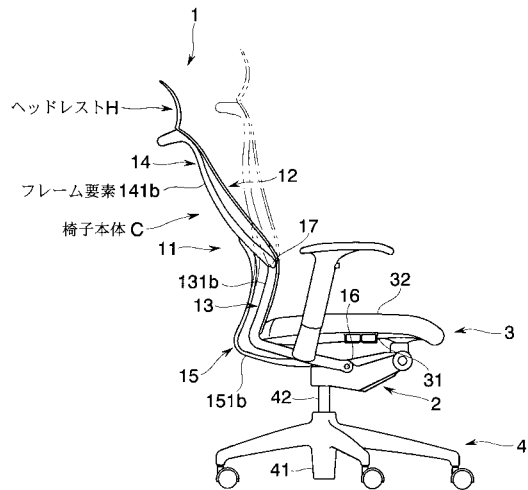
【図 3】



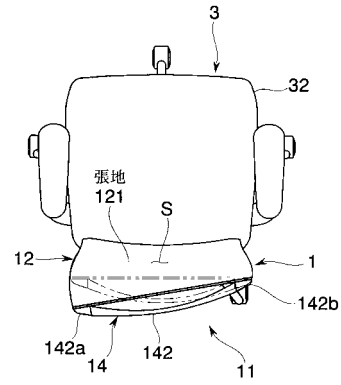
【図 4】



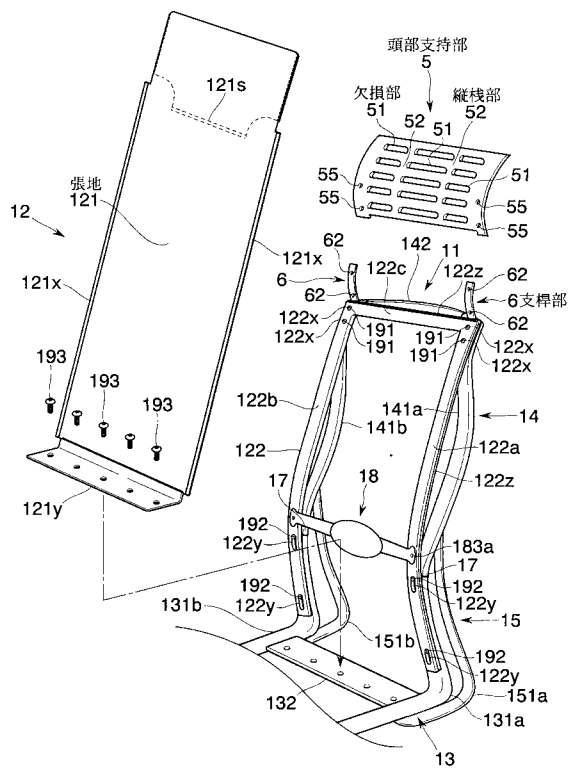
【図 5】



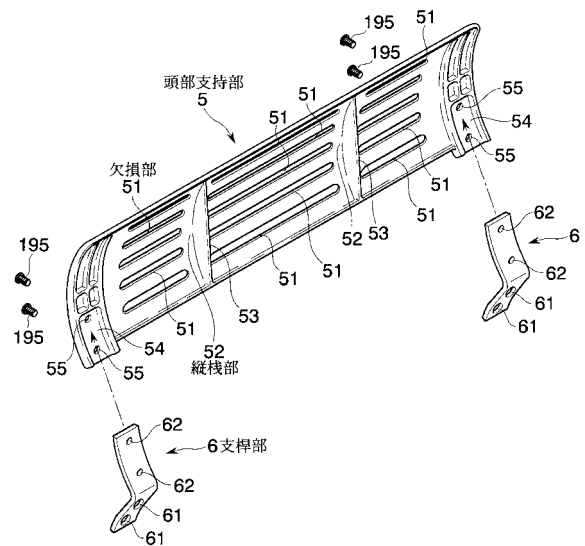
【図 6】



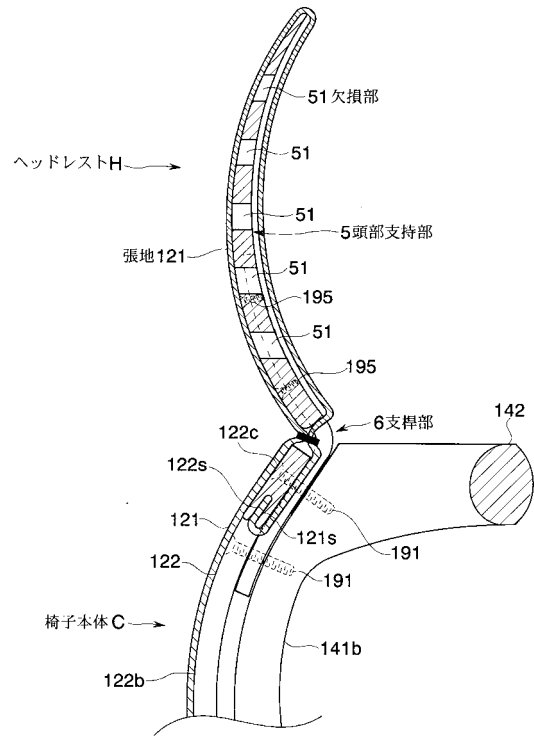
【図 7】



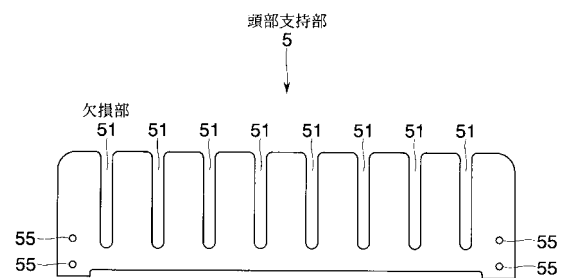
【図 8】



【 図 1 0 】



【 図 1 3 】



【 図 1 4 】

